

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：特別養護老人ホーム 青葉ヒルズ	種別：特別養護老人ホーム
代表者氏名：木内章夫	定員（利用人数）： 130 名
所在地： 〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町1260	
TEL：045-961-0088	ホームページ：http://www.swct.or.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2009年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 龍岡会	
職員数	常勤職員：62名 非常勤職員：80名
専門職員	（専門職の名称）： 名
	介護福祉士：53 名 介護支援専門員：6 名
	社会福祉士：6 名 看護師：5 名
	理学療法士：2 名 管理栄養士：3 名
	絵画療法士：1 名 音楽療法士：1 名
施設・設備 の概要	（居室数） 1ユニット10室 14ユニット
	（設備等）

③理念・基本方針

<理念>

「医」はサイエンスにしてアートである。アートとはすなわち「人間愛」である。
by ウィリアム・オスラー

<基本方針>

（サービス方針）

1. Guest Oriented Care : それぞれのゲストにふさわしい十人十色のケア
2. Hearty Care : 心の癒される誠心誠意のケア
3. After Care : いつでも信頼される生涯安心のケア

④施設・事業所の特徴的な取組

●特別養護老人ホーム青葉ヒルズ（以下、施設という）は、社会福祉法人龍岡会（以下、法人という）の経営です。法人の前身は昭和2年、湯島4丁目に開業した大森医院であり、所在する旧地名が龍岡町であったことから法人名を「龍岡会」と称された由来があります。龍岡町の地名は、現在は残っていませんが、東京大学の龍岡門にその名を残しています。龍岡会グループは、医療法人社団龍岡会と社会福祉法人龍岡会があり、関連団体として同じ理念で運営しています。平成8年、「龍岡老人保健施設」（現・龍岡介護老人保健施設）が開設され、その後東京都内、埼玉県で事業展開を行いました。平成21年に社会福祉法人として横浜市青葉区に青葉ヒルズを開設しました。

●特別養護老人ホーム青葉ヒルズは、横浜市青葉区の北部に位置し、東急田園都市線青葉台駅から少し郊外にあり、道を隔てた反対側には広大な敷地を有する日本体育大学のキャンパスがあり、近くには現上皇皇后陛下ゆかりの「こどもの国」や、自然散策や農業体験ができる「寺家ふるさと村」等が点在し、都心にも近く、豊かな自然が多く残る恵まれた場所にあります。施設はユニット型の特別養護老人ホームで、ショートステイとデイサービスが併設されています。特別養護老人ホームは1ユニット10名、全13ユニットで構成され、定員は130名です。さらに、ショートステイの1ユニット10名、デイサービスの10名を加え、日中、最大150名のゲスト（利用者）の方々が生活することができる体制を整えています。法人及び施設の方針は、「龍岡会」の理念・サービス方針を実践し、ゲスト（利用者）中心主義を徹底し、豊かな生活環境・充実した食事を提供する等、「ゲスト一人ひとりに喜んでいただきたい」という強い思いと拘りを持ったスタッフがサービスを担っています。

●特別養護老人ホーム青葉ヒルズの介護の特長は、非常に充実したサービス内容の綿密なケアプランを中心に、6部門（介護、看護、リハ、アート、栄養、相談）が連携して介護にあたる点にあります。また、介護全般について幅広く展開し、それら全てを施設独自のケアプランに凝縮をしています。全てのコミュニケーション・連携はこのケアプランによって実施されているといっても過言ではないくらい有効性が高く、細部に亘って綿密に作成されています。独自の書式は一般のケアプランの様式と全く異なり、内容が密に作られており、日常管理については、体調管理表で毎日の管理、月1回の6部門（介護、看護、リハ、アート、栄養、相談）によるケアカンファレンス、3か月ごとのケアプランの更新等、全ての介護をケアプランに集結した管理方法は、形のある目標管理として実現しています。さらに、関係職員が直接会して定期的に話し合う機会が中々難しい業務の中、それを定着させて体制を構築している点は評価が高いです。

●特別養護老人ホーム青葉ヒルズの外観は、開放的な大きなガラス窓が特徴的で洗練された佇まいであり、高い天井と細部に亘る上質な空間を提供し、グッドデザイン賞を受賞しています。ゲスト（利用者）と地域との結びつきを強く意識して設計され、パブリックスペースにはウォーターエリアとウッドデッキエリアを設定しています。居室は全室個室でプライバシーを維持し、吹き抜けのパブリックラウンジでゆったりと過ごすこともできます。浴室は壁面を格調高いトルコ製タイルで彩り、ゲスト（利用者）の入浴形態に合わせた各種浴槽を整備しています。デイサービスのスペースにはリハビリテーション器具が設置され、大人数の集まるレクリエーションやイベントもこのスペースで開催しています。施設にはアート部が設けられ、常勤の音楽療法士と絵画療法士を配置する等、ゲスト（利用者）が生き生きと生活ができるようソフト面、ハード面共に充実を図っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年7月7日（契約日）～ 2020年12月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1. 【理念・サービス方針の実践】

●特別養護老人ホーム青葉ヒルズをはじめ、医療法人社団、社会福祉法人の関連全施設は同じ理念を基に、サービス方針である①Guest Oriented Care ②Hearty Care ③After Careを掲げ、ゲスト（利用者）中心のケアを展開しています。ゲスト（利用者）

の個性や体調に沿った、その人に相応しい十人十色のケアにより、心が癒されるよう誠心誠意のケアを提供し、施設を離れても尚、信頼される生涯安心のケアを目指しています。理念・サービス方針については毎日の朝礼にて唱和を行い、その精神を各職員の心に刻んで日々上質なサービスを提供しています。

2. 【ゲスト（利用者）中心主義の徹底】

●特別養護老人ホーム青葉ヒルズでは、ゲスト（利用者）中心のケアを徹底して展開しています。身体的ケアの面は勿論のこと、食事についても充実しています。食事は給食業者に外部委託せず、法人が給食会社を運営しています。法人でセントラルキッチンを持ち、施設での調理も加え、多彩な献立、美味しい食事を提供しています。ユニットスタッフによる炊飯、食材の刻み・大きさの個別対応等、ゲスト（利用者）一人ひとりに配慮し、喜んでいただきたいという思いを持ってサービスに当たっています。また、アート部による趣向を凝らしたレクリエーション、リハビリのケアプランへの取り組み等、ゲスト（利用者）の「よろこび」の立場に立った活動を考え、豊かなサービスの提供に取り組んでいます。

3. 【ケアプランの充実】

●特別養護老人ホーム青葉ヒルズの最大の特長は、ケアプランの充実にあります。全ての介護、全てのコミュニケーション・連携、施策全てがケアプランに集約され、全体の発信源となっています。例えば、相談員がご家族との面会の際、一人ひとりのゲスト（利用者）の状況を詳細に伝えることができるのも、毎月1回のケアカンファレンスでの情報共有及び連携によるところが大きいと思います。相談員もユニットに出向き、ゲスト（利用者）と話す機会を持つ等、一層ゲスト（利用者）中心の濃密なケアが成されていることが確認できる取り組みです。

◇改善を求められる点

1. 【現行体制の維持について】

●特別養護老人ホーム青葉ヒルズは、充実したケアプランを中心とし、ゲスト（利用者）本位にサービスを展開する職員体制が構築されています。ケアプランを中心とする職員間の合議体制は軌道に乗っており、現時点では敢えて修正を加える必要はありませんが、毎月の継続、繰り返しの中で職員において「当たり前」とする慣性に陥ることは避けなければならないと考えます。ケアプラン作成プロセスの改善に向け、常に意欲を持って進めていかれることを期待いたしております。また、フォーマットの電子化に頼らずに、それを現場のケアに活かせる「生きた情報」にするための努力も望まれます。さらに、急な職員の異動や退職による欠員が生じた場合等、不測の事態に備え、バックアップできるように、組織内の意思疎通、情報共有を強化するような体制作りに向けてご一考いただければと思います。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： 社会福祉法人 龍岡会 特別養護老人ホーム 青葉ヒルズ

<評価に取り組んだ感想>

青葉ヒルズは開所以来11年、法人の理念を実現すべく、試行錯誤を繰り返しながら、ゲストお一人お一人に寄り添ったケアを進めてきました。そのために、多職種協業によるケアプラン作成・実行プロセスをはじめとする独自の取組も行ってきました。それらは施設では今や当たり前のこととして根づいているのですが、今後に向けて、客観的な

視点で評価して頂く必要があると判断し、第三者評価を受審しました。

結果としては、これまで施設として努力して進めてきたことについては高い評価が得られ、大きな自信になりました。今回の評価・ご指摘を踏まえて、今後の環境変化やゲスト・ご家族の多様なご要望にも応じられるような改善を進めてきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり